

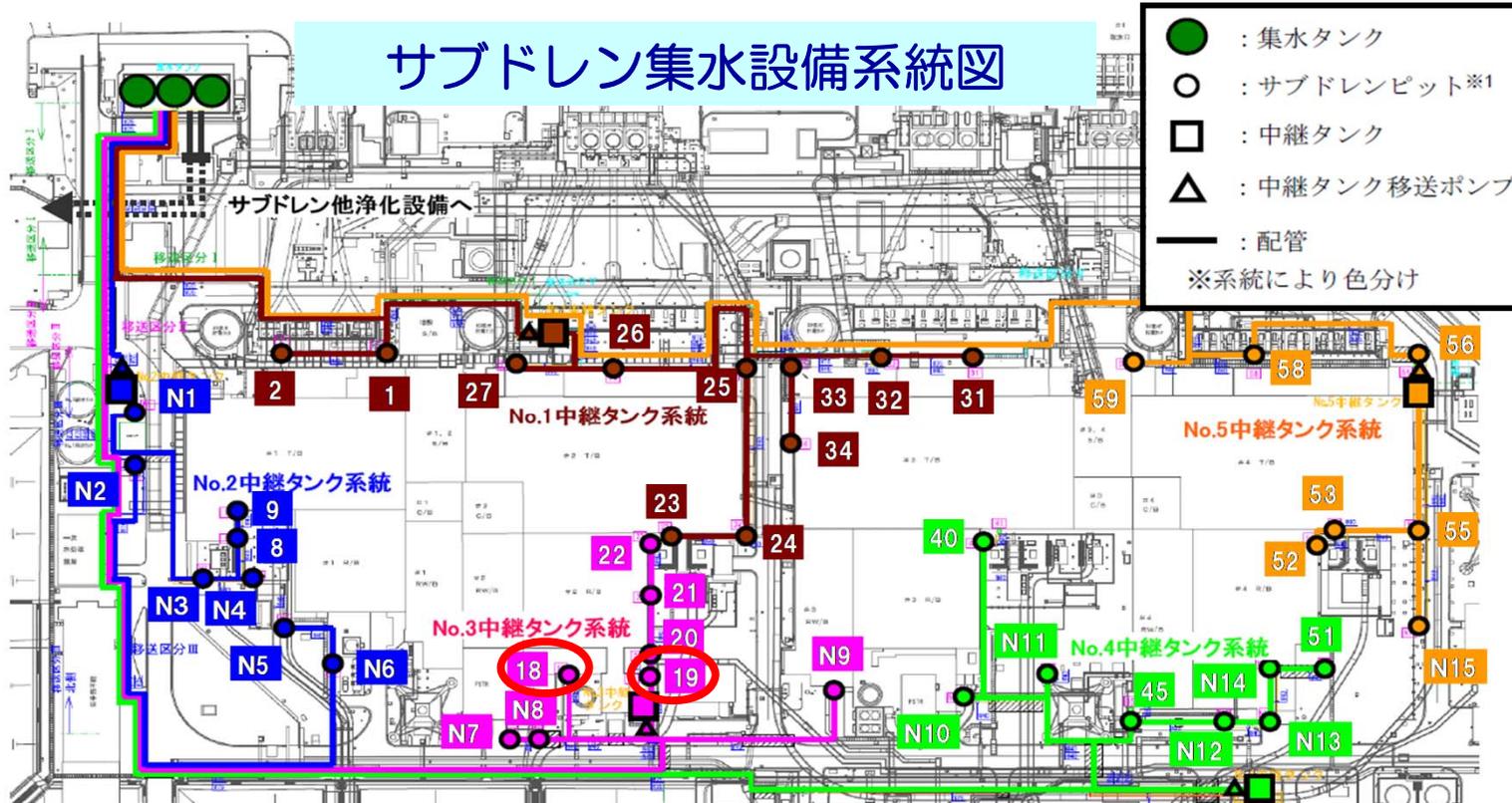
2号機西側サブドレンにおける放射能濃度上昇について

■サブドレン浄化の運用に向けて、汲み上げ対象の全ピットの水質状況の把握を10/22に実施した。調査の結果、2号機西側No.18, 19において、セシウム及び全βの濃度が上昇していることを確認。

(単位：ベクレル/リットル)

ピット	セシウム134	セシウム137	全β	トリチウム
No.18	94,400 (140)	334,000 (340)	392,000 (690)	6,840 (3,200)
No.19	103,000 (150)	355,000 (350)	389,000 (490)	8,000 (2,700)

※括弧内は昨年末（H25/11～12月）の水質調査結果。



- 前回の水質調査結果から、セシウム濃度が3桁上昇しているが、トリチウム濃度の変動は小さい（約2～3倍）。
- No18, 19ともに建屋より山側に位置しており、地下水位は建屋滞留水より十分に高い。（地下水位：OP+7～8m程度，建屋水位：OP+3m程度）
- 当該サブドレン水と2号機タービン建屋滞留水の放射能組成比は下表のとおり。サブドレン水はセシウム合計値と全βが同等であるものの、滞留水はセシウムの他にβ線放出核種の存在が確認されている。これはストロンチウム等によるものであり、サブドレンにはその存在が極小であることから組成が大きく異なっている。

試料名	採水日	放射能組成比 (%)				
		セシウム134	セシウム137	全β	トリチウム	合計
No.18	H26/10/22	11	40	47	2	100
No.19	H26/10/22	12	42	45	1	100
2号機タービン 建屋滞留水	H26/9/9	7	23	69	1	100

注：No.18とNo.19のセシウム合計値（11+40=51, 12+42=54）と全β値（47, 45）は同等である。No.18とNo.19のセシウム137値（40, 42）も同等である。2号機タービン建屋滞留水のセシウム合計値（7+23=30）と全β値（69）は一致せず、大きく異なる。

- 他のサブドレンピットについても水質調査を実施しているが、放射能濃度上昇は確認されていない。



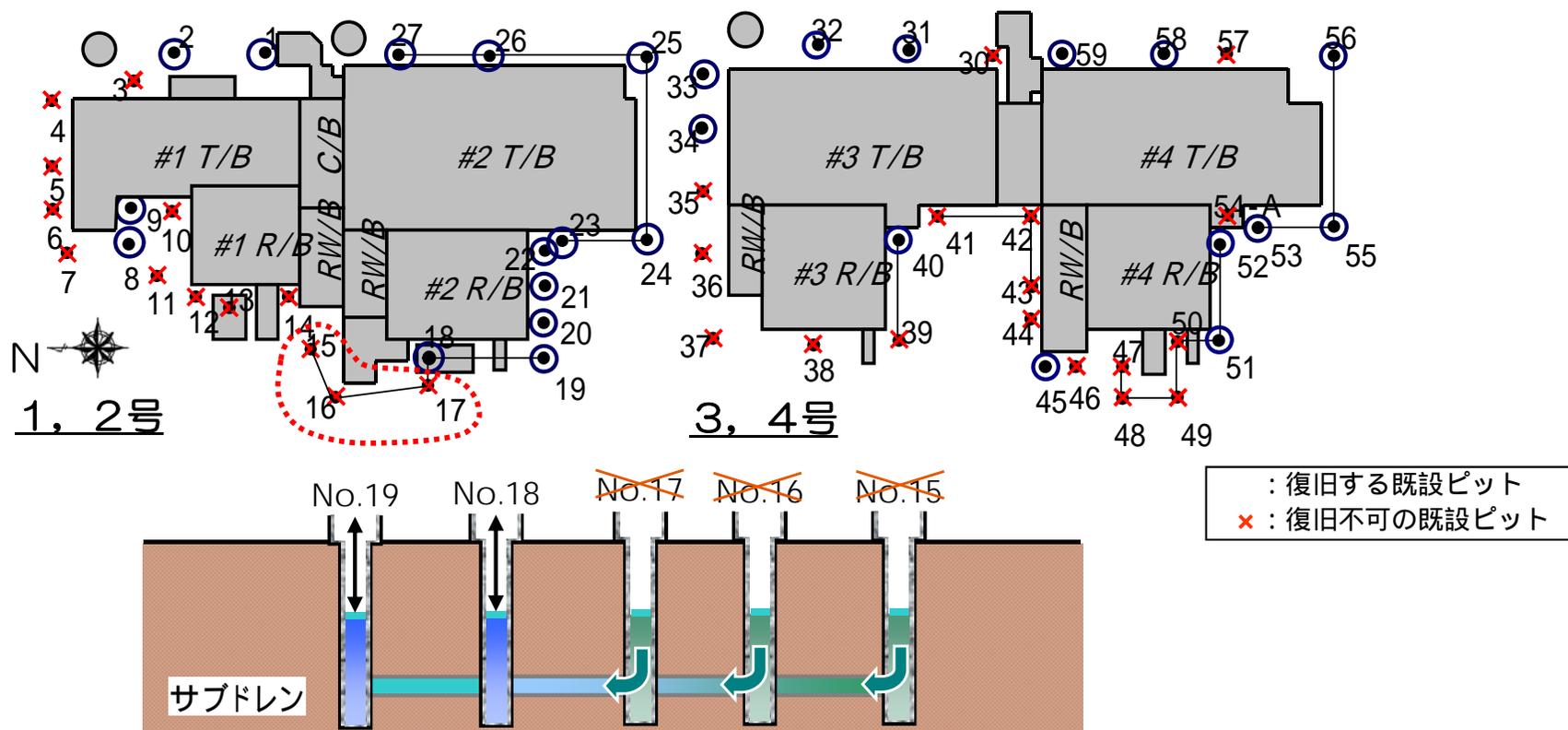
地下水からの移行／建屋滞留水の漏えいではないと考える。

■ No.18, 19ピットは、高線量等で復旧不可と判断したNo.15, 16, 17ピットと横引き管で連結されており、10/18~19にサブドレン浄化性能確認試験の一環でNo.18, 19の揚水ポンプを稼働した結果、**No.15, 16, 17ピットから放射性物質を徐々に引き込んだと考えられる。**

■ 10/29に震災後初めてNo.16ピットの水質調査を実施したところ、高濃度の放射性物質を検出。

(単位：ベクレル/リットル)

ピット	セシウム134	セシウム137	全β	トリチウム
No.16 (10/29採取)	852,400	2,922,000	3,178,000	分析中
No.18(10/22採取)との比較	9.0倍	8.7倍	8.1倍	—



- No.18, 19ピットに横引き管で連結されているNo.16, 17ピットの閉塞等, 対策について検討していく。
- 対策が完了するまで, No.18, 19ピットからの地下水汲み上げは行わない。
- 原因の推定が出来たことおよび10/24以降, 当該サブドレン水の放射能濃度は低下し, その値から有意な変動がないことから, 作業員の被ばく低減の観点で, 当該および周辺のサブドレンの放射能分析を1日1回から1週間に1回に頻度を変更し, 傾向を監視していく。